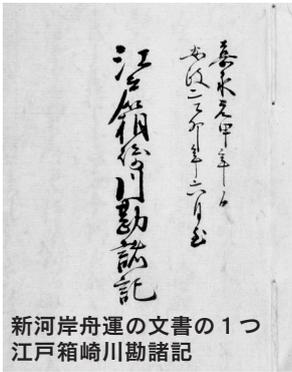


元町二丁目井上家文書

現在の元町二丁目は、かつて高沢町といました。代々、高沢町の名主を世襲した井上家は、戦国時代末期に丹波笹山（現在の京都府）から移住したそうです。

井上家文書の総数はおよそ千八百点。寛永九年（一六三二）から昭和初期までの文書があります。江戸時代の文書は、「支配、年貢・負担、町、寺社、経営、新河岸舟運、家」の七種類に分類できます。「新河岸舟運」の文書では、嘉永元年（一八四八）に第九代の勘兵衛が、川越商人十六人を代表して、「川越屋勘兵衛」と名乗り、江戸における商品の購入や輸送の中枢になっていたことが分かります。また、「町」の文書からは、当時の川越の人口動向を知ることができます。

明治以降の文書は、「町政、経営、新河岸舟運、家」の四種類に分類できます。江戸時代の文書は公的なものが多いのに対し、明治以降の文書は、井上家の私的なものがほとんどです。井上家文書は、近世から近代にかけて川越の町を支えてきた、有力商人の動向を知ることができます。また、町人社会の構造を物語る貴重な史料として、ほかにはない特色を持っています。特に「新河岸舟運」については、今まで河岸問屋の史料を中心に研究



されてきましたが、川越商人の史料から新たな側面が見えてくると期待されます。研究対象として貴重なことから、1月28日に市の指定文化財になりました。

市税納期のお知らせ

5月は、固定資産税第1期・軽自動車税の納期です。
忘れずに納めましょう。
問い合わせ…収税課収税管理担当
TEL224-5686

どんぐり

編集後記

4月28日(火)、川越まつり会館の入館者が50万人を突破。オープンから5年7か月目の達成となりました▶50万人目の来館者となったのは、千葉県80歳の男性。「川越がテレビの舞台になって、妻と一緒にツアーに参加しました」。男性には、山車のミニチュア模型、川越唐棧の名刺入れ、小江戸携帯ストラップなどが川合市長から贈呈されました。「つばさ効果もあり、4月の入館者が昨年の1.5倍。50万人達成が早まり、喜ばしく思います」と川合市長。

世界の国から、こんにちは！



カナダ/ヴィタリ ヴォロビッチさん

出身は、オンタリオ州のトロントです。3月に初めて日本に来たばかりです。川越に着いた日はちょうど桜が咲いていて、満開の桜にとっても感激しました。今は高校で英語を教えています。川越の生徒の皆さんは、授業を受ける態度がまじめですね。また、カナダの高校では制服がありません。そのためか日本の高校生の方がカナダの高校生よりも、落ち着いた印象を受けました。川越の生活にも少し慣れてきたので、これから蔵造りの町並みや、いろいろなところを見て回りたいと思っています。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは13・16ページ、相談は22ページをご覧ください。

国際交流課・TEL224-5506